

情 報 公 開 文 書

研究の名称	組織アレイ（TMA）を用いた、食道癌における神経関連分子の発現解析
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 （所属・氏名）	消化器・腫瘍・総合外科(第二外科) 特命教授 奥村知之
研究の概要	【研究対象者】 2008 年 1 月から 2025 年 3 月に、富山大学附属病院で食道癌に対する手術を受けた患者さんが対象です。 【研究の目的・意義】 本研究の目的は、食道癌を対象として腫瘍と神経細胞の相互関係（腫瘍神経クロストーク）に基づく転移制御機構を解明することにより、転移克服に向けた新たな治療標的を探索することです。 本研究によって腫瘍-神経クロストークのメカニズムとともにその臨床病理学的意義を明らかにすることで腫瘍生物学に新たな知見を提供するとともに、トランスレーショナル研究における新たな標的分子を提供できると期待されます。 【研究の方法】 対象となる検体から組織アレイ (Tissue Microarray: TMA) を作成し、免疫組織染色によって神経関連分子（ Muscarine 受容体, ADR 受容体, NSE, Dopamine 受容体）の発現を検出し、臨床病理学的因子との相関を解析します。それらの結果と、電子カルテから抽出した臨床病理学的因子（予後、臨床病期等）との関連を統計学的に解析します。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2030 年 3 月 31 日 【利益相反の状況】 利益相反はありません。 【研究結果の公表の方法】 国内外の学会や学術雑誌にて発表予定です。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 （他機関への提供の有無）	研究に用いる試料： 手術時に診療目的で採取され病理部で保管されている、ホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロック 研究に用いる情報： 手術日 年齢 性別 既往歴 術前採血データ（白血球数、赤血球数、血小板数、好中球数、リンパ球数、

	単球数、Alb、ChE、T-Chol、CRP、プレアルブミン、HbA1c、SCC、p53) 術前臨床病期 術後臨床病期 術前化学療法の有無とレジメ 手術時間 出血量 術後合併症（肺炎、縫合不全、吻合部狭窄など） 再発形式 再発確認日 再発後の治療 最終確認日 予後 対象となる検体から組織アレイ (Tissue Microarray:TMA) を作成し、免疫組織染色によって神経関連分子の発現を検出し、臨床病理学的因子との相関を解析します。それらの結果と、電子カルテから抽出した臨床病理学的因子（予後、臨床病期等）との関連を統計学的に解析します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び機関の長の職名・氏名	富山大学附属病院長・山本 善裕
研究資料の開示	研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究代表機関における研究責任者の所属・氏名）	富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科（第二外科） 特命教授 奥村 知之
研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7331 FAX 076-434-5043 E-mail masa0125@med.u-toyama.ac.jp 富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科（第二外科） 特命教授 奥村知之、助教 三輪武史、病院助教 長森正和